

I 赤谷プロジェクトについて

赤谷プロジェクトは、群馬県みなかみ町北部に広がる国有林を、関東森林管理局、地域協議会及び自然保護協会の三者が協定を結び、協働で森林生態系管理を行うプロジェクトです。

対象地域は「赤谷の森」と呼ばれる約1万ヘクタール（10km四方）の国有林です。プロジェクトでは、この広大な森林を大きく6つのエリアに区分し、管理していくこととしています。

赤谷プロジェクトでは、二つの大きな目標を掲げています。それは、この地域の地形や地質、気象に応じた多様な森林生態系の保全・復元を科学的根拠に基づき進めていく「生物多様性の復元」と、現在ある自然をよりよく保全しながら、損なわないように活用していく「持続的な地域づくり」を進めていくことです。

赤谷プロジェクトの中で最も重要な会議が「企画運営会議」です。この会議がプロジェクトの意思を決定する機関であり、すべてのプロジェクト活動の最終的な決定を行っています。

また、赤谷の森における植生管理や猛禽類など多方面にわたる調査研究内容を統括し、プロジェクトの活動につ

いて科学的立場から助言していくために、「自然環境モニタリング会議」があります。そして、内容ごとに具体的な調査・検討を行うワーキング・グループ（以下、「WG」とします。）を組織しており、現在活動しているWGは、①植生管理、②猛禽類モニタリング、③ほ乳類モニタリング、④溪流環境復元、⑤環境教育、⑥地域づくり、⑦フィールド利用管理の7つです。

これらの活動を、プロジェクトの中核となっている三つの機関の関係者が外部の専門家とともにを行っています。

さらに、プロジェクトの趣旨に賛同されたボランティア（以下、「サポーター」とします。）の方々が毎月第一土曜日・日曜日（以下、「赤谷の日」とします。）にプロジェクトの活動拠点である「いきもの村」（みなかみ町相俣地区にある国有林の旧苗畑跡地を再整備した施設）に集まり、赤谷プロジェクトを支える様々な活動を行っています。

